

## 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて

テーマ：「地域における学術・文化の創造と情報の発信を目指して  
 —産学官民の連携による大学コンソーシアムの形成—」

開催日時：平成20年12月13日（土）～14日（日）

会場：名古屋大学（名古屋市）

参加者：全国各地域の大学コンソーシアム関係者（名簿配布なし）

参加者数：全体参加数 335名（講師含む）

第1分科会	100名	第4分科会	64名
第2分科会	120名	第5分科会	96名
第3分科会	62名	第6分科会	38名

出席者：大学コンソーシアムあきた

吉岡 尚文（運営委員長・秋田大学副学長）  
 森 宏一（教育研究部会長・秋田県立大学理事）  
 勝又 美智雄（地域貢献部会長・国際教養大学教授）  
 佐々木 厚（プロジェクト「4A」コーディネーター・秋田大学）  
 武田 さやか（カレッジプラザスタッフ）

### 《12月13日（土）：1日目》

#### ■基調講演「持続発展する豊かな地域作りを目指した産学官連携」

社団法人中部経済連合会会長 川口 文夫 氏

…中部経済連合会の中期活動指針を示しながら、中部地域における産学官連携の事例紹介  
 と更なる産学官連携の推進の必要性について講演。…

#### ■シンポジウム

シンポジスト 文部科学省生涯学習政策局長 清水 潔 氏  
 株式会社中日新聞代表取締役会長 白井 文吾 氏  
 (財)大学コンソーシアム京都副理事長  
 /龍谷大学・短期大学部学長 若原 道昭 氏  
 中部経済連合会会長  
 /中部電力株式会社代表取締役会長 川口 文夫 氏  
 コーディネーター 愛知学長懇話会世話人（代表幹事）  
 /名古屋大学総長 平野 眞一 氏

…シンポジストがそれぞれ講演を行い、会場からの質疑に回答する形式で進行。…

## ◇文部科学省生涯学習政策局長 清水氏「これからの高等教育政策について」

…高等教育を取り巻く現状と課題、これらを踏まえた今後の高等教育政策についてを講演。…

<ポイント>文部科学省の高等教育に対する方向性

- ①教育研究活動の推進と各大学の自主的な判断による多様化・機能分化を目指す
- ②これからは「学士力」を学生がきちんと身につけているかどうかが見られる

## ◇株式会社中日新聞代表取締役会長 白井氏「地域に生きる産学連携」

…「マスメディアから見た大学教育について」「地域づくりと産業界・大学などとの連携」の二つのテーマにもとづいて講演。在学中に一般教養と社会常識、そして考える力を学生に身につけさせて欲しいなどの要望が出された。…

## ◇(財)大学コンソーシアム京都副理事長 若原氏「財団法人大学コンソーシアム 京都の過去・現在・未来～設立からこれまでと第3ステージに向けて～」

…大学コンソーシアム京都の設立背景から今までの活動とその到達点を紹介し、今後の活動プランの方向性を紹介。…

<ポイント>

- ① 設立の主旨が「大学のまち京都」「学生のまち京都」のブランド力構築。

大学が連携を行うことにより様々なメリットを学生・産業界・地域・行政に提供することにある。

大学にとっては教育研究の質向上とその成果を地域に還元するというのがメリット。1998年に法人格を取得。45の大学・短期大学と京都市、経済4団体の50の団体が連携した今日の財団法人大学コンソーシアム京都となった。2009年には当財団の活動拠点である「大学のまち交流センター」が建設された。

- ② 現在の事業推進体制について

6つの事業部に分かれている。財団予算のうち、事業実施のための予算は約2億3000万円、職員は出向職員21名、嘱託職員12名、臨時職員7名の合計40名。

- ③ 財団の第3ステージと位置付け

2009年からは財団の第3ステージと位置付け、プランのキーワードを「質の向上」「選択と集中」「国際性・地域性」の3つとした。費用対効果も考慮し、事業の削減と重点化を大胆に行いリニューアルをする予定。各大学で行えることは各大学で行い、コンソーシアムだからこそ、という事業を前面に出すことにし、連携の強みを発揮できる事業、大学の枠を越えて参加できる事業、京都の魅力を生み出し発信できる事業などに特化する。

例えば、学生の海外留学では通常は大学と海外の大学が協定を結び個別に送り出しと受け入れを行っている。これをコンソ対コンソの対面で協定をし、学生にとって更に海外留学がしやすく、今まで海外の大学と連携できていない大学の学生も留学が容易にできる環境を構築したい。

更に外部資金の積極的な獲得、国や行政の資金獲得に向けたプロジェクトや、国行政の情報を収集して積極的に活用を行うなど、従来にない総合的で包括的な取り組みを計画している。

#### ④ 第3ステージのスローガン

第3ステージのスローガンは「世界に誇る『大学のまち』・『学生のまち』京都」。これまでの点と点の連携を面と面の連携に広げ、全国に先駆けた連携プログラムの開発や京都独自の新しい連携構築を目指す。そのためのフレームワークとして次の6点を考えている。

- a. 地域性を活かした大学間連携による教育の質の向上と様々な教育プログラムの展開
- b. 「大学のまち京都」をリードする学生の発掘
- c. 教育力向上のためのFD、SD事業の充実と地域ネットワークの推進
- d. 加盟大学と短期大学の個性、魅力を活かした規模別、分野別、地域別、等々のミニコンソーシアムの形成
- e. 京都全体のひとつのキャンパスと捉える「京都ワンキャンパス」の国内外への発信
- f. 「京都高等教育研究センター」での共同研究による京都の魅力の追求

#### ◇中部経済連合会会長 川口氏（基調講演講師）

…産業界からの提言として学生が身につける専門度を高めて欲しいということと、若いときから生涯的な目標を持って欲しいと言うことを講演。…

#### ■文部科学省からの情報提供について

「大学、短期大学等の連携への支援について」

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 今泉 柔 剛 氏

…今後文部科学省が目指したい方向性と大学連携の重要性について（今後は全ての大学がどこかのコンソーシアムに関わっている形を目指す、などの発言があった）述べた後、新制度「共同学部・共同大学院」の説明及び平成21年度も引き続き行われる「戦略的大学連携支援事業」について説明があった。…

<ポイント>

##### ◎共同学部・共同研究科制度の概要

①国公立の設置者の枠を越え、複数の大学が集まり一つの共同教育課程を編成するという制度である。その教育課程を修了すれば、構成している複数大学連盟による学位が授与される。

##### ②今後のスケジュール

平成21年3月1日施行。認可申請を受け付ける

平成21年 秋 申請の認可予定

平成22年4月 共同学科・学部の開設

##### ③イメージ（抜粋）

- ・構成大学（2～4大学）は一つの大学が開設する授業科目を、その他の大学の教育課程の一部とみなして、同一内容の教育課程（共同教育課程）を編成
- ・共同教育課程のみを実施することは不可。構成大学はそれぞれ124単位の大学として教育研究をしていることが前提条件

- ・学生は各構成大学が開設した授業科目の単位をそれぞれ一定数以上取得
- ・共同学科等の課程を修了した者には構成大学による連盟の学位を授与
- ・国内大学のみを対象、国外大学との共同設置は考えていない
- ・大学と短期大学などのように異なる学校種間での共同開設は考えていない（同一学校種間の共同）

#### ◎戦略的大学連携支援事業の概要

平成20年度から開始した事業だが、引き続き21年度も行っていく。基本的には20年度と同じ内容だが、予算要求としては20年度より50億円増の80億円で計上している支援件数も新規採択70件を含む110件（20年度は54件・344大学が採用された）に増加していく計画である。21年度の概算要求のポイントとして連携による教育の質保証強化への取り組みを重点支援する。

### ■全国大学コンソーシアム協議会運営委員会報告

…全国大学コンソーシアム協議会事務局より、昨年度の第4回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの収支、同協議会運営委員会の開催、同協議会への新規加盟の報告、また、来年度の研究交流フォーラムについての案内があった。…

①2007年9月以降の新規加盟については「相模原・町田大学地域コンソーシアム」、「大学コンソーシアムやまなし」が加盟承認済み、退会については「ひょうご大学連携事業推進機構（発展解消）」が退会承認済み。運営委員の辞任・承認については大学コンソーシアムやまがたの中村三春氏が辞任、特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアムの難波美都利氏、キャンパスコンソーシアム函館の横殿肇氏が就任。

②来年度の第6回フォーラムは函館市で9月12日（土）～13日（日）の開催予定。

### ■第3分科会「教員免許状更新講習の円滑な実施に向けて ～現状と課題～」

…平成21年度からスタートする教員免許状更新講習のモデル的プログラムの開発や試行を実施した事例の発表と文部科学省より試行の現状と本試行についての説明が行われた。…

#### ◎報告1 大学コンソーシアム長崎 「多くの離島を抱えた県における教員免許更新講習」

- ・長崎県は南北に広く、また、離島を多く抱える県である。特に離島の教員が更新講習を受ける際には受講負担が大きい。そこで、大学コンソーシアム長崎の事業（単位互換事業）とその経験を基礎に新たなシステムを構築し教員免許更新講習を実施した。

#### ◎報告2 大阪教育大学 「大阪教育大学における教員免許更新講習の実施」

- ・大阪教育大学での教員免許更新講習の実施活動の紹介

#### ◎報告3 社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩 「ネットワーク多摩及び加盟機関の事例」

- ・教員免許更新講習のテーマを定め、テーマ毎にネットワーク多摩加盟大学の教授陣が担当した。テーマの元に各大学がテーマに沿った講座を出し合う形。対象の小学校・中学校・高等学校教員が学校の種別に関わらず混ざり合う形で行った。
- ・八王子セミナーハウスの講習の紹介。短期集中合宿形式の講習紹介。
- ・桜美林大学の講習紹介。eラーニングによるオンデマンド講習

《12月14日（日）：2日目》

## ■第6分科会「コンソーシアムの組織運営について」

…組織の概要、事業、日常的な運営方法、現状の課題等が2つのコンソーシアムから発表された。コーディネーターと討論者からこの報告を例示として全国のコンソーシアムが抱える問題が提示され、これに対して発表者、討論者、会場から意見が出された。…

○報告団体 ①特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし

②大学コンソーシアムひょうご神戸

○討論者 南大阪地域大学コンソーシアムコーディネーター 難波美都里 氏

○コーディネーター 教育ネットワーク中国代表幹事 広島修道大学教授 市川太一 氏

### ◎報告1 特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし

『特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし』設立の経緯と現状の課題」

…内閣府、文部科学省の受託事業をうまく受けて事業を展開している様子。事務局内に、県・コンソーシアム・構成機関（大学、短大）を取り持つコーディネーター1名がいる。…

・山梨県内の12大学、短期大学を会員に2年前に特定非営利法人として設立。それぞれの大学の学部内容は重ならない。事業の種類は9つ。①情報交換・交流・発信事業、②調査等受託事業、③単位互換事業、④生涯学習事業、⑤高大連携事業、⑥インターンシップ事業、⑦学生交流事業⑧留学生支援事業、⑨図書館連携事業

・平成20年度の単位互換事業ではコーディネート科目2科目を含む129科目が提出され、64名が履修している。この単位互換事業を利用し、平成18年度には内閣府都市再生本部の「全国都市再生モデル調査」に応募。平成19年度には「単位互換による学生の大学間移動を起点としたまちづくり事業化方策検討」調査が実施された。

・学生の大学間移動に伴い公共交通機関の乗り換えや待合いのための学生が集まる場ができ、それを調査することにより、公共交通機関のあり方や中心市街地における新たなまちづくり事業化について検討を行うことなどが目的。

・高大連携事業は大学入試センターと共催して、対象を山梨県内高等学校の進路指導担当者とする大学ガイダンスセミナー、山梨県内の高校生と保護者を対象とする大学ガイダンスセミナーを開催している。高大連携授業は実施していない。

・コンソーシアム内の5大学が連携して「地域アカデミー」講座を開設している。

### ◎報告2 大学コンソーシアムひょうご神戸 「発足から2年6ヶ月」

…加盟団体は35法人、34大学・10短期大学。7つの委員会を設け、各校が各委員会に入っている。各委員会の委員校長が主体になって委員会を運営。拠点となる場所がなく、事務所をどこで構えるのが問題。スタッフ3人がいるが、専任ではない。…

### ◎2つの報告を通して浮かび上がった問題点とそれに対する意見

① 財政面について（自治体、産業との連携の難しさ）

（問題点）主な収入源は構成機関の年会費や県の補助金だが、県の補助金が打ち切られるところが多く、財政面が脆弱。

(意見1)「受託事業に取り組む」

討論者の難波美都里氏が南大阪地域大学コンソーシアムの取り組みを紹介。

設立当初にあった堺市からの補助金が無くなり、設立基金300万円のみになった。

事業を展開すると必要な人手を確保することができない。そこで、大学の研究者を資源と捉え、各大学の研究者が地域の課題、例えば「環境」「子育て」など、に対して何が  
できるか企画書をコンソーシアムで考え、行政側や地域に提示。これを元に受託事業を  
獲得している。現在では行政のよろず相談所的な立場に。こうした事業展開でキーパー  
ソンになるのがコーディネーター。各大学の研究者を熟知し企画の提案を行っている。

(意見2)「大学の設立で地域に若者が」

大学が設立されたことで若者が地域に入り活性化された。また、コンソ自体も地域の  
活性化を考えた事業を展開している。行政・企業が補助金や協賛費を出すのは当然では？

② 大学コンソーシアムの知名度の低さ

(問題点) 地域社会（県民、事業者等）が大学コンソーシアムの存在やその活動内容などを充分  
に知らない。

③ 事務局体制が脆弱、活動拠点が無い

(問題点) 事務局体制が脆弱。各事業の実施においてスタッフの不足などからきめ細やかな対応  
が困難。また、事業の企画立案から実施までにおける各構成機関と事務局の役割分担が  
不明確。

④ 学内の問題、コンソーシアム構成組織間の問題

(問題点) 構成機関である大学の教職員、学生にも大学コンソーシアムの存在やその活動内容な  
どが充分に知られていない。大学間の事業参加への温度差もある。競合する大学が連携  
している場合も多く、学内でコンソーシアムの活動に賛同が得られにくい。

(意見1) コンソーシアムの名前のみが前面にでて、自大学の名前が出にくくなると大学からの  
反発は大きい。各大学の名前が出るように広報等で工夫をしている。

(意見2) 事業によって連携する・しないを行うことにより、問題が解決するのではないかと。

(意見3) 学内の知名度の低さをカバーするためには、各大学で教員がコンソを通じて学外で  
貢献活動を行った場合に、インセンティブを与えることが有効だと思う。

## 諸活動実施報告書、研修会・講習会等参加報告書

名称ならびに 主旨・目的	第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 各地域にある大学コンソーシアムがその地域で行っている活動の情報授受
実施部局等	全国大学コンソーシアム協議会      場所：名古屋大学
実施日時	平成20年12月13日～平成20年12月14日
事業参加者	本学参加者名：吉岡尚文、佐々木 厚(プロジェクト4Aコーディネータ) 学外参加者：県立大 森教授、教養大 勝又教授他 全国コンソーシアム関係教職員
内容概略	<p>名古屋大学キャンパスを会場に開催され、初日はポスターセッション(20機関、コンソーシアム)での自由討論の他、基調講演、シンポジウム、文科省からの大学・短大支援の説明、各分科会での発表と討論、懇親会、2日目は各分科会での討論。</p> <p><b>基調講演</b>は中部電力会長(中部経済連合会会長)の川口氏が行い、産学官が共同して地域の発展に寄与すべきことを主張した。シンポジウムでは各シンポジストがそれぞれの立場からプレゼンテーションを行った。文科省清水氏(生涯学習政策局長)は若者人口の減少に伴う大学環境の現状と今後、大学改革と併行する競争的資金や施策について話した。中日新聞の白井会長は大学の地域への貢献を軸にいくつかの例を上げて説明した。若原氏(大学コンソーシアム京都副理事長)は自らのコンソーシアム発足の経緯からこれまでの活動、今後の計画・目標について触れた。シンポジウムのプレゼンテーションでは若原氏の内容が、我が秋田コンソーシアムの参考になる点が多かった。引き続き、文科省大学振興課の清水氏は次年度からの戦略的支援プログラムの説明の中で、共同学部・共同研究科(大学院)制度がかなり意識された形であることや、このプロジェクトに競争的資金の投入があること等は重要な発言であった。</p> <p><b>分科会：大学連携による単位互換事業</b></p> <p>3つの発表があり、2つは自分たちが活動しているコンソーシアムの活動報告と自慢話、岐阜県からの発表は単位互換と言うよりも県の関与を早く止めたいというものでありこの分科会から得られるものはなかった。</p> <p>2日目は分科会：社会貢献・地域貢献のあり方について 山形と石川の活動報告がありその後討論。いずれも学生の参加を意識していたが、やはり、意欲的な教員の存在が重要であることが発表から感じられる。</p>
参考事項 所感	<p>各地のコンソーシアムの発表はそれなりに参考になるが、多くは課題を抱えながら活動している様子である。部分的にはうまくいっている活動も示されているが、教員個人の意欲に支えられている。</p> <p>京都は資金面、人材面に恵まれており、活動内容なども参考になる点が多い。</p> <p>プロジェクト4Aの採択、その活動を契機に傾眠中のコンソーシアムあきたを覚醒する必要がある。</p>

報告者 秋田大学 吉岡尚文

平成20年12月17日





# 全国大学コンソーシアム協議会

## 【設立趣旨】

近年、全国各地で大学連携、地域社会、産業界との連携による大学連携、大学コンソーシアムの取り組みが進められています。大学を超えた連携型教育・研究は、今やひとつの形態として大学教育の一角を担うようになりつつあります。

また、その地に根ざす大学はもちろんのこと、地域の歴史、立地、特性を背景として設立された地域組織としての大学コンソーシアムは、いかなれば高等教育機関と地域社会とが深く結びつき、大学の発展と地域の活性化を実現する取り組みでもあります。

現在、高等教育は世界的な水準で質の保証が問われ、教育・研究は社会の評価が問われる時代でもあります。言い換えれば、社会の多様な教育ニーズに応え、特色ある教育・研究を創造することが求められています。

このような時代において、世界的にも高等教育を構成する重要なシステムである大学コンソーシアムは、連携でこそ実現可能な新しい学びと、知の社会還元を実現する可能性を有しています。

この様な流れの中で、発展段階にあるわが国の連携型教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えのもとで、「全国大学コンソーシアム協議会」を設置します。

発行日：2008年11月12日更新

会場：名古屋大学

主催：全国大学コンソーシアム協議会

共催：愛知学長懇話会

大学コンソーシアムセト

開催日時：2008年12月13日(土)

～2008年12月14日(日)

## 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

メインテーマ：「地域における学術・文化の創造と情報の発信をめざして  
—産学官民の連携による大学コンソーシアムの形成—」

地域における大学の役割は、学術・文化の中心として、また、教育基盤の礎ともなる学術文化の創造と発展、交流を担う拠点であるとともに、広く知を公開する地域社会の発展にも寄与しています。

さらに、一つの大学から連携組織体であるコンソーシアムの形成では、地域、行政、企業、教育の4部門が、それぞれ連携・運動することで、地域の多様化から独創性へと進路を駆け、幅広く個性が開化する時代の一翼をコンソーシアムが担っています。従来にはない取組や地域の活性化について、広く情報を発信する場を提供したい。

### ■プログラム

	時間	内容	講演者		
12月13日(土) (1日目)	11:00~16:30	ポスターセッション(1B 電子情報館)			
	12:00~13:00	受付(ポスターセッション(1B 電子情報館))			
	13:00~13:10	挨拶	大沢 勝氏 愛知学長懇話会世話人(代表幹事)、日本福祉大学総長・理事長		
	13:10~14:00	基調講演	川口 文夫氏(社)中部経済連合会会長、中部電力株式会社代表取締役会長		
	14:00~16:00	シンポジウム (120分)	◆清水 潔氏 文部科学省生涯学習政策局長		
			◆白井 文吾氏 株式会社中日新聞社代表取締役会長		
			◆川口 文夫氏(社)中部経済連合会会長、中部電力株式会社代表取締役会長		
			◆若原 道昭氏(財)大学コンソーシアム京都副理事長、龍谷大学・短期大学部学長		
			コーディネーター ■平野 真一氏 愛知学長懇話会世話人(代表幹事)、名古屋大学総長		
	16:00~16:25	「大学・短期大学、コンソーシアムへの支援について」 (文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 今泉 柔剛氏)			
16:25~16:40	全国大学コンソーシアム協議会運営委員会報告				
16:45~18:45	分科会(120分) Aセッション	① 大学連携による単位互換事業 (学術・文化・産業ネットワーク多摩)	② FD・SD事業 (大学力を高める施策について) (キャンパス・コンソーシアム函館)	③ 教育免許状更新講習の円滑な実施に向けて～現状と課題～ (大学コンソーシアム大阪)	
18:45~20:15	情報交換会 (90分)				
12月14日(日) (2日目)	10:00~12:00	分科会(120分) Bセッション	④ 社会貢献・地域貢献のあり方について (大学コンソーシアム石川)	⑤ 戦略的大学連携支援事業の採択大学の事例発表 (大学コンソーシアム京都)	⑥ コンソーシアムの組織運営について (教育ネットワーク中国)



(社)中部経済連合会会長  
中部電力株式会社  
代表取締役会長  
川口 文夫氏

### 【基調講演】

ナショナルプロジェクトとして取り組まれた中部国際空港と愛知万博の成功は、交通インフラはもとよりプロジェクトによって構築された交流ネットワーク、そして国際的な知名度の向上等、この地域に大きなプラス効果をもたらしました。来るべき広域連携の時代に向けて、この成果を十分活用しつつ、好調な経済基盤をさらに強化する活動を継続的かつ着実にすすめ、産官学が一体となって魅力と活力に溢れた中部の地域づくりに邁進していければと考えています。

### 【シンポジウム】

全国に広がる大学コンソーシアムは、それぞれの地域の特色を活かした人材養成と、「まち」づくりをキーワードに多彩な取り組みを展開しています。この地域は、高等教育機関が集積し、また産業界をはじめ行政・自治体、市民と大学等の多様なネットワークが歴史的にも形成されているエリアです。

シンポジウムでは、戦略的大学連携支援事業をはじめ国の高等教育政策を踏まえ、全国の経験に学びつつ、これからの大学コンソーシアムの在り方を探ることができればと考えています。

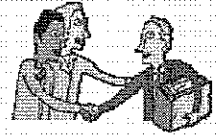
## ポスターセッション、分科会詳細(12月13日(土) 1日目)

### ポスターセッション(初日のみ開催11:00~16:30)

北は北海道から南は九州まで全国各地の地域で、コンソーシアムの活動が盛んになり、それぞれが特色を持って産・官・学・地域と連携しながら取り組みがなされています。

このポスターセッションでは、各コンソーシアムが発行、作成した資料の展示はもとより、各コンソーシアムが取り組んでいる単位互換、インターシップ、生涯学習、地域学、高大連携推進、シンクタンク機能などの様々な活動状況を紹介し、実践的な経験や取り組みなどのノウハウを共有し、参加者間の情報の交換の場として、提供いたします。

また、今回から企業ブースを設け、企業のアイデアを皆様の取り組みに活用できないか様々な情報を交換する場も提供いたします。



### 第1分科会 (学術・文化・産業ネットワーク多摩)

#### 【テーマ】大学連携による単位互換事業

学生の学びの支援や個々の大学の省力化を求め、コンソーシアムによる単位互換事業が盛んになってきた。

だが、現状はごく近隣の大学間か授業のない土日や長期休暇中の集中授業を除くと利用率は伸びていない。それを打開するためにインターネットを利用したeラーニングによる単位互換も誕生したが、果たして状況は好転するのだろうか。

#### 【第1分科会プログラム】

16:45~17:15	「高等教育コンソーシアム宮崎」における単位互換事業の現状と課題—コーディネート科目の有用性」 報告者: 碓 哲雄氏 (「高等教育コンソーシアム宮崎」運営委員会委員長、宮崎大学理事・副学長)
17:15~17:45	「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜における共同授業及び単位互換の現状と課題」 報告者: 中川 弘之氏 (ネットワーク大学コンソーシアム岐阜(岐阜県人づくり文化課主査))
17:45~18:15	「学術・文化・産業ネットワーク多摩&首都圏西部大学単位互換協会における単位互換の現状と課題」 報告者: 本郷 優紀子氏 (学術・文化・産業ネットワーク多摩常任幹事、桜美林大学総合研究機構事務局長、桜美林大学教員免許状更新講習センター事務局長)
18:15~18:45	討論・質疑応答
コーディネータ	本郷 優紀子氏

### 第2分科会 (キャンパス・コンソーシアム函館)

#### 【テーマ】FD・SD 事業(大学力を高める施策について)

大学「全入」時代を迎えたいま、学生の人的諸能力と意欲を伸ばす大学の「教育力」が試されています。このことは知識と技能の伝授に傾倒してきた従来の大学教育に根本的な変革と試練をせまるものです。大学の導入教育と形成的評価の取り組みは、学生の適応過程で決定的な意味をもつと言われます。また、全国の大学コンソーシアムでは加盟大学の内部と外部の知的資源を結集した創造的FDプログラム開発の取り組みがはじまりつつあります。

#### 【第2分科会プログラム】

16:45~17:15	「初年度導入教育の効果と学生アセスメント制度の活用」 報告者: 山田 礼子氏(同志社大学教育開発センター所長)
17:15~17:45	「FDに特化した大学間連携組織『FDネットワーク“つばさ”』の活動」 報告者: 小田 隆治氏(山形大学教授)
17:45~18:45	討論・質疑応答
コーディネータ	田中 邦明氏(北海道教育大学函館校)

### 第3分科会 (大学コンソーシアム大阪)

#### 【テーマ】教育免許状更新講習の円滑な実施に向けて ～現状と課題～

平成21年度からスタートする教員免許状更新講習の円滑な実施をはかるため、本コンソーシアムでは、関係大学・機関6者による「教員免許更新講習実施大阪連絡会」を設け、大阪における講習の諸課題について、検討を重ねてきた。大阪における講習は、受講対象者が多いため相当数の大学によって担うことが必要であること、その場合、毎年約4,200人と推定される受講者への受講機会の保障とバランスのとれた校種及び科目の提供が課題になっている。本分科会では、講習のモデル的プログラムの開発や試行を実施された事例などを紹介いただき、実施に向けた諸課題について、様々な角度から意見・情報交換を頂きたい。

#### 【第3分科会プログラム】

16:45~17:15	「多くの離島を抱えた県における教員免許更新講習」 発表者: 橋本 健夫氏(長崎大学教育学部教授)
17:15~17:35	「大阪教育大学における教員免許更新講習の実施」 発表者: 森 実氏(大阪教育大学教職教育研究開発センター長)
17:35~17:55	「地域コンソーシアムによる教員免許更新講習の取り組みについて」 発表者: 大田 睦弘氏(社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩 チーフディレクター)
17:55~18:15	「教員免許状更新講習制度の試行の状況と本施行について」 発表者: 宮内 健二氏(文部科学省初等中等教育局教職員課 教員免許企画室長)
18:15~18:45	意見・情報交換
コーディネータ	野田 文子氏(大阪教育大学 副学長)



## 分科会詳細(12月14日(日) 2日目) 10:00~12:00

## 第4分科会(大学コンソーシアム石川)

【テーマ】社会貢献・地域貢献のあり方について

大学コンソーシアムが行う社会貢献・地域貢献の活動として、各コンソーシアムでは生涯学習として地域学や公開講座などの開催、インターンシップ事業への取り組み、地域の活動に学生が参加する事業、社会・地域課題の解決方を学生が提案する事業などを実施している。

本分科会では、幾つかの具体例について御報告いただき、コンソーシアムが果たす社会貢献・地域貢献のあり方について考察する。



## 【第4分科会プログラム】

10:00~10:40	『「大学コンソーシアムやまがた」における地域連携の取組』 報告者: 下平 裕之氏(大学コンソーシアムやまがた総務運営委員会委員長、山形大学人文学部准教授)
10:40~11:20	『大学コンソーシアム石川を活用した学生による地域課題解決方策の提案』 報告者: 池田 幸應氏(金沢星稜大学教授)
11:20~12:00	討論・質疑応答
コーディネータ	宮一 諭起範氏(北陸大学教授、大学コンソーシアム石川)



## 第5分科会(大学コンソーシアム京都)

【テーマ】戦略的・大学連携支援の採択大学の事例発表

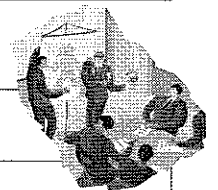
国公立を超えた大学間の戦略的連携を支援する事業が平成20年度から始まった。地方の大学や小規模大学などが限られた予算の中で単独で環境整備を進めるのが難しい場合に、相互補完的な教育プログラムや、得意分野を持ち寄った研究などを選定して支援する事業。

本年度は、94件(総合的連携型広域型35件、教育研究高度化型35件、他24件)の申請があった。本分科会では、各申請区分から採択された2つに御報告を頂き、来年に向けての参考にして頂き、連携の難しさと利点を考察する。

また、文部科学省大学振興課から次年度の狙いや本年度の状況についてご報告頂く。

## 【第5分科会プログラム】

10:00~10:05	本分科会の狙いについて
10:10~10:55	『アクティブ・ラーニング型学生派遣・受入プログラムの構築を通じた広域的な大学間連携』 報告者: 浅野 考平氏(関西学院大学副学長、理工学部教授)
10:55~11:40	『「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による大学の教育力向上』 報告者: 柳澤 康信氏(愛媛大学 教育・学生支援機構長)
11:40~12:00	『戦略的・大学連携支援事業』の本年度の状況と次年度の申請について 報告者: 古田 和之氏(文部科学省 高等教育局 大学振興課 課長補佐)
コーディネータ	清水 郁子氏(立命館大学政策科学部事務室事務長)



## 第6分科会(教育ネットワーク中国)

【テーマ】コンソーシアムの組織運営について

今年度は報告組織を公募し、応募があった2つの組織に報告をお願いした。2つの組織はいずれも2006年度に設立された組織であるが、それぞれ組織の背景をもっている。

組織の概要、事業、日常的な運営方法、組織運営のむづかしさをどのように解決されているかなどについて報告をしていただく。報告後、できるだけ参加者も交えて、今コンソーシアムが抱える諸問題について意見交換をしていきたい。

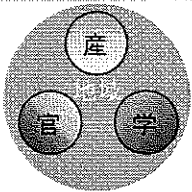
## 【第6分科会プログラム】

10:00~10:05	本分科会のねらい
10:05~10:30	「特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし」設立の経緯と現状の課題 報告者: 北原 哲夫氏(大学コンソーシアムやまなし事務局長、山梨大学医学部教授)
10:30~10:55	「大学コンソーシアムひょうご神戸」発足から2年6ヶ月 報告者: 田中博人氏(大学コンソーシアムひょうご神戸事務局長)
10:55~11:00	討論者: 難波 美都里氏(南大阪地域大学コンソーシアムコーディネーター)
11:00~12:00	意見交換
コーディネータ	市川 太一氏(教育ネットワーク中国代表幹事 広島修道大学教授)

# 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

## 会場アクセスマップ

愛知学長懇話会



全国大学コンソーシアム  
協議会  
〈幹事会組織〉

●(社)学術・文化・産業ネットワ  
ーク多摩

●大学コンソーシアム石川

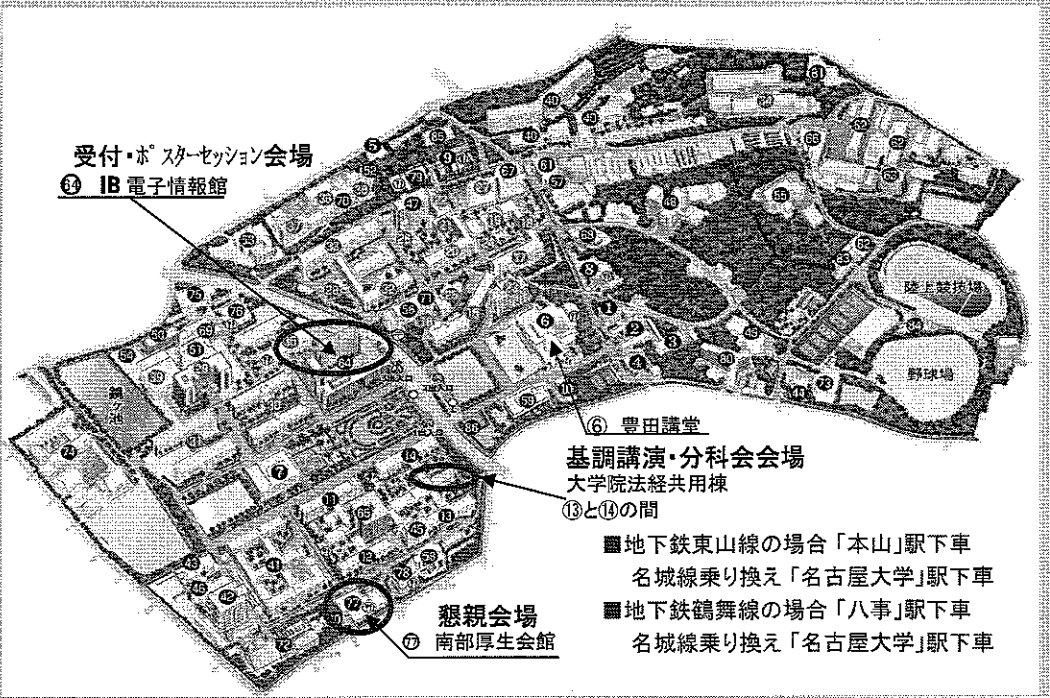
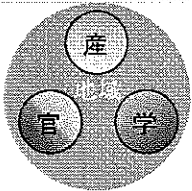
●愛知学長懇話会

●(財)大学コンソーシアム京都

●NPO法人大学コンソーシアム大  
阪

●教育ネットワーク中国

●ネットワーク大学コンソーシアム  
岐阜



■地下鉄東山線の場合「本山」駅下車  
名城線乗り換え「名古屋大学」駅下車  
■地下鉄鶴舞線の場合「八事」駅下車  
名城線乗り換え「名古屋大学」駅下車

## 参加費

申し込み区分	参加費	情報交換会費	報告書	合計
A:参加のみ	3,000円	×	×	3,000円
B:参加+情報交換会	3,000円	3,000円	×	6,000円
C:参加+報告書	3,000円	×	1,000円	4,000円
D:参加+情報交換会+報告書	3,000円	3,000円	1,000円	7,000円

## 申込方法

### 協議会加盟組織の方の申込について

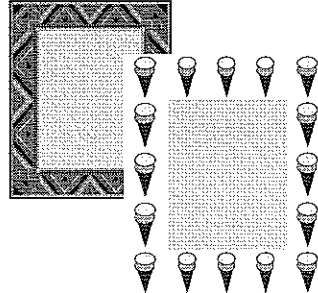
全国大学コンソーシアム協議会加盟組織の方は、所属するコンソーシアムで参加者の集約をお願いしています。つきましては、所属するコンソーシアムの事務局にお問い合わせください。各所属の機関が当協議会の加盟コンソーシアムについては、以下のページをご参照ください。

加盟組織一覧:  
<http://www.consortium.or.jp/link/japanconsortium.html>

### 非加盟組織・個人の方の申込について

全国大学コンソーシアム協議会に非加盟の組織・団体の方で、個人でお申込の方は、以下のページを参照のうえ、申込書類をダウンロードし、必要事項を記載のうえ全国大学コンソーシアム協議会の事務局にお申込ください。

全国大学コンソーシアム協議会のページ  
[http://www.consortium.or.jp/category\\_list.php?frmCd=27-0-0-0-0](http://www.consortium.or.jp/category_list.php?frmCd=27-0-0-0-0)



**全国大学コンソーシアム協議会**  
事務局:  
〒600-8216  
京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャスプラザ京都  
財団法人大学コンソーシアム京都 担当:重田  
電話:075(353)9100  
FAX:075(353)9101  
Email: alljapan-consortium@consortium.or.jp

